

No.	項目	規格	試験方法						
1	使用温度範囲	- 30 ~ + 85	最大電圧を印加した時、使用可能な周囲温度範囲。						
2	保存温度範囲	- 40 ~ 125	ポジスタ®を実装状態で保存可能な保存温度範囲。						
3	抵抗値 (at 25)	定格値を満足します。	周囲温度25 において、最大電圧3分印加後、室温 (25) に2時間放置した後、1.0Vdc以下 (測定電流10mA以下) の直流端子電圧を用いて測定する。						
4	耐電圧	異常はありません。	周囲温度25 において、ポジスタ®の端子間に、0Vより徐々に印加電圧を上昇させ、最大電圧の120%の交流電圧を180±5秒間印加する。(ただし、直列に保護抵抗を接続し、ポジスタ®に流れる突入電流を最大電流以下に制限すること。)						
5	保護電流	動作電流以下・不動作電流以上の値を満足します。	ポジスタ®に流れる電流が最大となった所の電流。静止空気中において、次ページの「保護電流測定条件」にて電圧を少しずつステップ的に3分間印加していき、電氣的・熱的に安定した時の最大電流を測定する。						
6	端子引っ張り強度	リード線は損傷なく耐えます。	ポジスタ®本体を固定し、各端子の軸方向に下表に規定する値の荷重を徐々に加え10秒間保持する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>公称リード線径</th> <th>荷重</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.6mm以下</td> <td>4.90N</td> </tr> <tr> <td>0.65mm以上</td> <td>9.80N</td> </tr> </tbody> </table>	公称リード線径	荷重	0.6mm以下	4.90N	0.65mm以上	9.80N
公称リード線径	荷重								
0.6mm以下	4.90N								
0.65mm以上	9.80N								
7	端子曲げ強度	リード線は切断しません。	リード線の引き出し軸が、垂直になるように下表に規定する値の荷重を釣り下げ、90度曲げ元に戻し、さらに逆方向に90度曲げ、再び元に戻す。以上の操作を1回徐々に行う。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>公称リード線径</th> <th>荷重</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.6mm以下</td> <td>2.45N</td> </tr> <tr> <td>0.65mm以上</td> <td>4.90N</td> </tr> </tbody> </table>	公称リード線径	荷重	0.6mm以下	2.45N	0.65mm以上	4.90N
公称リード線径	荷重								
0.6mm以下	2.45N								
0.65mm以上	4.90N								
8	はんだ付け性	リード線の円周方向3/4以上で、軸方向に浸したところまで切れ目なく、はんだが付着しています。	リード線をロジン (JIS K 5902) のイソプロピルアルコール (JIS K 8839) または、エタノール (JIS K 8101) 溶液 (約25wt%) に5~10秒浸漬し、次に本体の根元から2.0~2.5mmのところまで、235±5 のはんだ (JIS Z 3282 H60A) 溶液中に2±0.5秒間浸す。						
9	はんだ耐熱性	抵抗変化率 試験前の値に対し：±15%以内 表示は読めます。	リード線を本体の根元から2.0~2.5mmのところまで、350±10 のはんだ (JIS Z 3282 H60A) 溶液中に3.5±0.5秒間浸漬する。そして、室温 (25) に2±4時間放置後、抵抗値を測定する。						
10	耐湿試験	抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。	温度60±2 、湿度90~95%の恒温 恒湿槽に入れ、500±4時間放置したのち、大気中に取り出し乾布で軽くぬぐい、室温 (25) に1時間放置し、抵抗を測定する。						
11	高温負荷	抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。	温度85±3 の恒温槽中において、最大電圧をポジスタ®両端に印加し500±4時間通電する。(ただし、直列に保護抵抗を接続し、ポジスタ®に流れる突入電流を最大電流以下に制限すること。) その後室温 (25) に1時間放置し、抵抗を測定する。						
12	断続寿命	抵抗変化率 試験前の値に対し：±20%以内 表示は読めます。	室温において、最大電圧をポジスタ®両端に印加し、1分ON-5分OFFのサイクルを100回繰り返す。(ただし、直列に保護抵抗を接続し、ポジスタ®に流れる突入電流を最大電流以下に制限すること。) その後室温 (25) に1時間放置し、抵抗を測定する。						

次ページに続く

☐ 前ページより続く

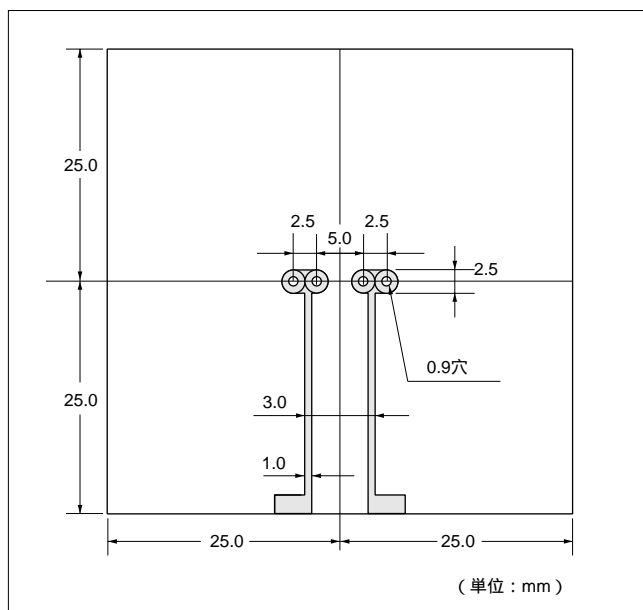
保護電流測定条件

1. 実装基板

材質：紙フェノール片面プリント基板

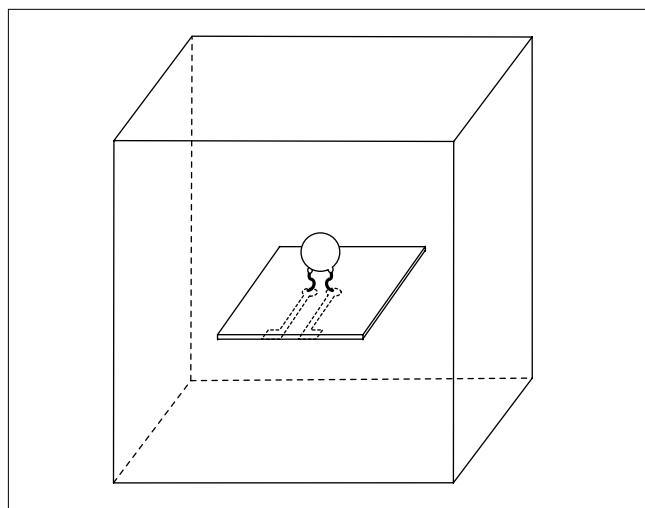
寸法：50×50×t1.6mm

スルーホール部：銅箔無し



2. 実装および測定条件

ポジスタ®を基板に実装し、ランド部にてはんだ付けした後、
風防のため150mm四方のカバーをかぶせる。



3. 測定回路

